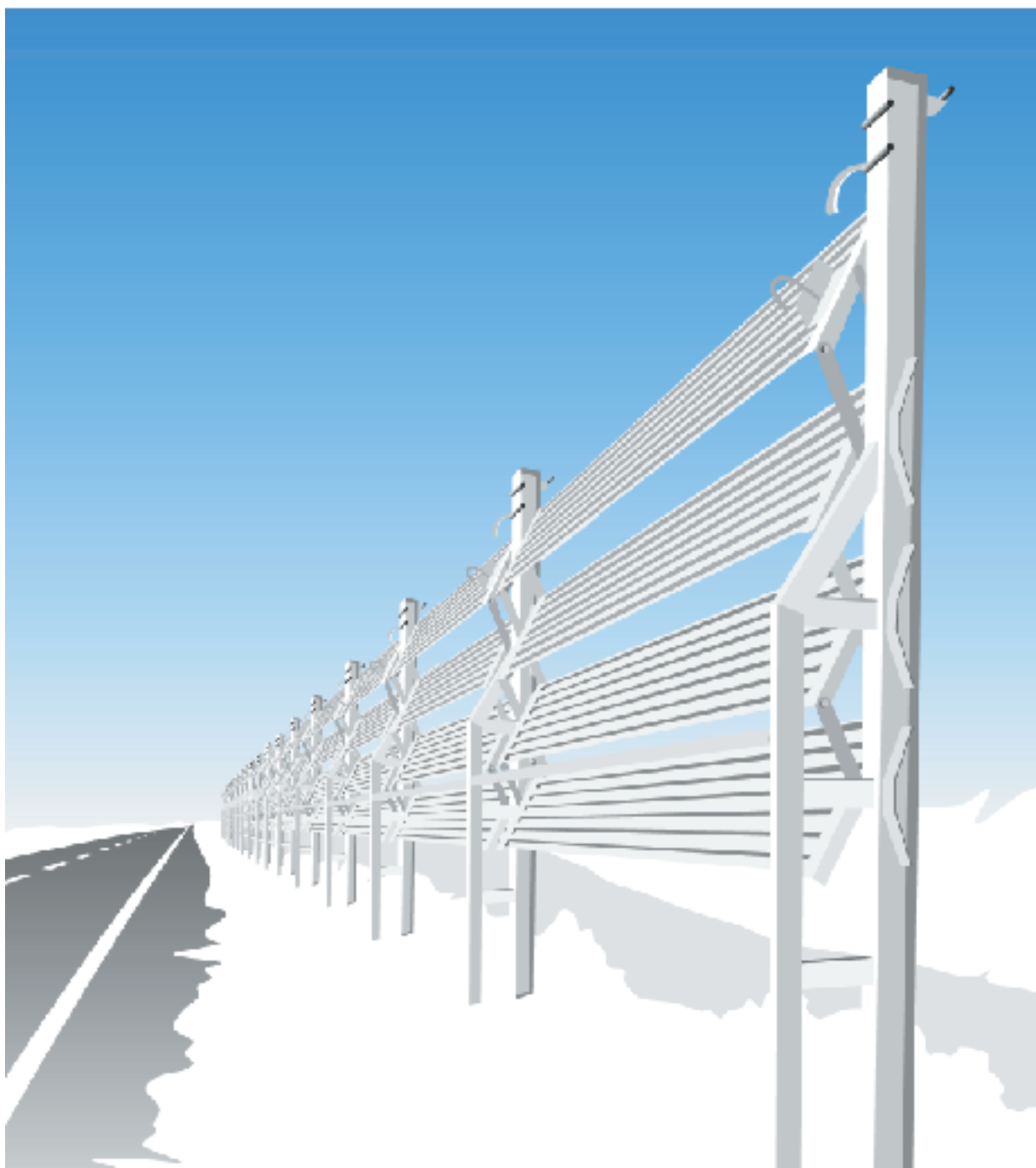


株式会社リけん FOR INFRASTRUCTURE

製品カタログ

防雪・防風柵



<http://www.kk-riken.co.jp/>

自然をもって自然を制する。

風雪による吹き溜まりや視界不良、路面凍結など、冬型の交通障害を克服するためのキーワードは「親・克雪」です。風や雪、地形など自然条件を研究し、自然の持つ力を熟知した上で逆にその性質を利用すること。当社では、まさにこの自然をもって自然を制するという発想に立ち、より効果的な防雪・防風柵の設置をご提案します。



防雪柵
各タイプ

吹払柵

吹溜柵

防雪・防風柵は設置条件に合わせた各種タイプが用意されています。高さ、数量、地形、道路状況などに合わせ、最適のものがお選びいただけます。

吹抜柵

吹止柵

高規格
対策用柵

収納も簡単で手間いらず。

夏場の景観を生かすためにも収納設置が簡単な防雪柵は求められます。
取り付け、取り外しを簡素化した下部収納タイプが主流となっています。



吹払柵(自立)
下部収納タイプ
RB-P01S型



吹払柵(自立)
上部収納タイプ
RB-H25M型





吹払柵
ユニック昇降タイプ
RB-P16S型



オーバーハング式
下部収納タイプ
RB-P06M型

あらゆる条件をクリアします。

防雪柵の設置場所は千差万別です。各設置ポイントの諸条件を精密にデータ化し、より効率的な設計が行われます。



吹止柵
下部収納タイプ
RS-308M型



吹止柵
下部収納タイプ
RS-402MA型



防風柵
RS-418M型



吹払柵＋吹止柵
RS-324M型
RB-H20M型

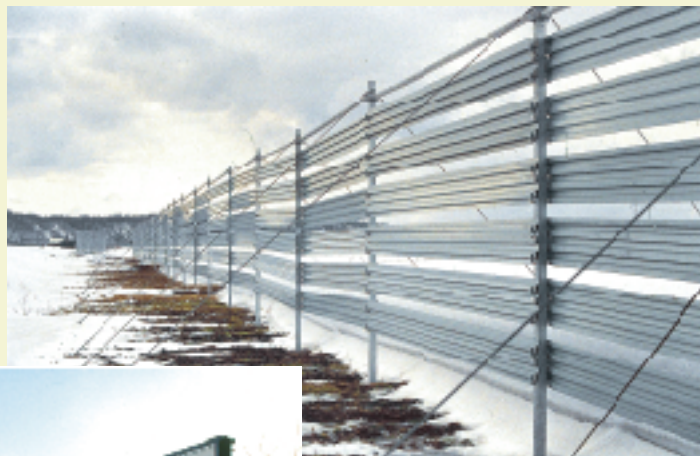
防風・砂防にも大きな威力を発揮しています。

防雪柵で培われた当社の技術は防風・砂防柵の設計の上でも大きな力を発揮しており、その成果は各地に広がっています。



防風柵
RP-502F型

吹溜柵
RA-11型



吹止柵
RS-324M型

景観を配慮した新素材のご提案。

交通安全上はもとより、景観への配慮を考えた時、より望ましいのは視野がさえぎられないこと。
当社ではポリカーボネート、樹脂ネットなどの新素材による防雪・防風柵をご提案しています。



防風柵



隙間樹脂ネット



防風柵

斜面の雪を安定させる雪崩予防柵。



擬木型雪崩予防柵



柵高＝2.0m 柵幅＝5.5m

現地調査から設計・製作まですべておまかせください。

自然を読み上手に利用する。

当社では力づくで雪や風、砂などをブロックするのではなく、その性質を利用することで、より経済的な防雪、防風柵の設置を実現しております。

厳密な調査実験から最適な防雪・防風柵が生まれます。

より効果的な防雪柵・防風柵をつくるためにはその土地の地形はもとより、千変万化する現地の気象を正確に把握しなければなりません。まずこうした厳密な調査により得られたデータに基づき、現地の状況（地形・気象等）をモデル化します。次に、その地形、気象等の各種条件を考慮し、これまでの経験とアイデアから、いくつかの防雪・防風柵のモデルがつくられます。各モデルは風洞模型実験などにより、限りなく現地に近い状況の中で厳密な検証を受け、さらに追跡調査・シュミレーションをくり返すことでいっそう精度を高め、より整合性の高い確実な設計が実現されます。

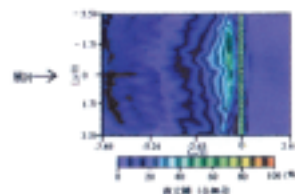
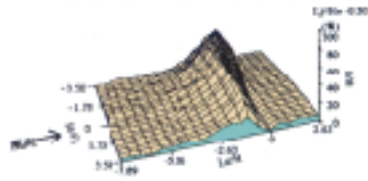
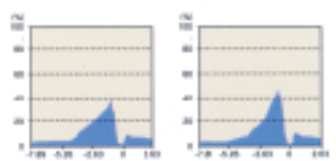
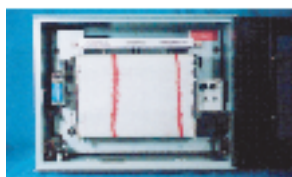
- 雪害状況
- 雪害予測

- 気象
- 地形などの調査

- 防雪柵
- 設計・アイデアの提案

●シュミレーション

●実施

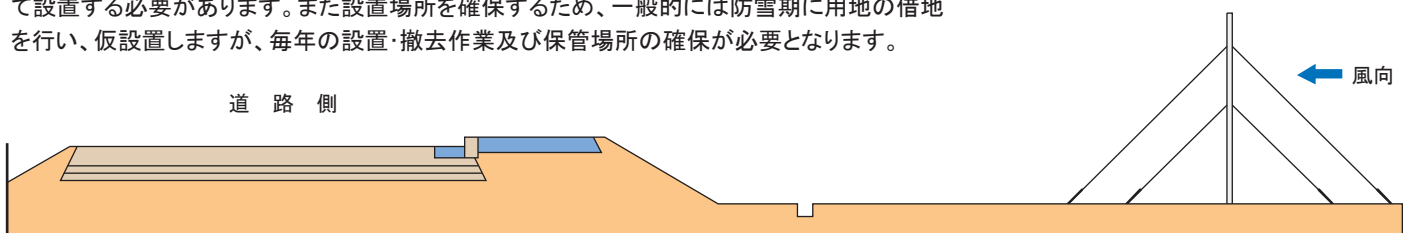


各防雪柵の特徴を効率的に使い分けることが大切です。

防雪柵を設置する場合、その柵の使用目的及び設置条件を基に検討しなければなりません。その際、ぜひ知っておいてほしいのが各柵の特性です。設置条件に合わせてこの特性を上手に使い分ける必要があります。

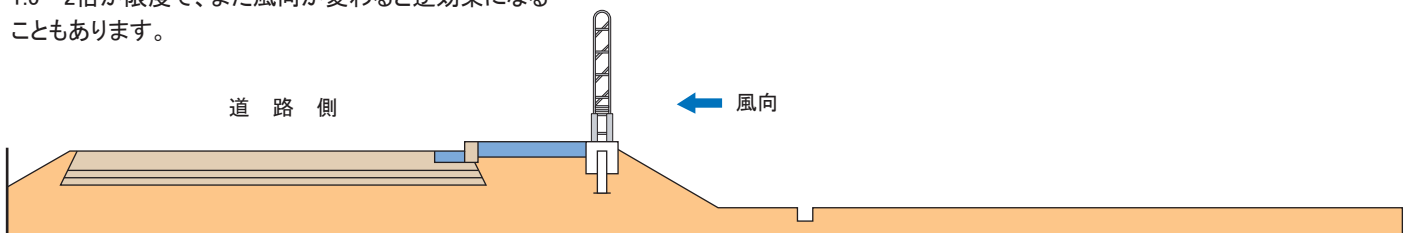
1. 吹溜式防雪柵（吹抜型）

道路の風上側に設置して風速を弱め、柵の前後（風上・風下）に飛雪を堆雪させることで、道路への吹き込みを防止する柵を吹溜柵といいます。吹溜柵は、防雪柵の下部をあけて風を絞ることにより、柵より離して雪を堆雪させるため、柵が埋没することなく機能を発揮することができます。この柵の特長は防雪機能の効果期間が長く、積雪の沈降力によって柵が破壊されないという点にあります。柵風下側の雪丘の形成を考慮し、道路から有効柵高の10倍以内程度離して設置する必要があります。また設置場所を確保するため、一般的には防雪期に用地の借地を行い、仮設置しますが、毎年の設置・撤去作業及び保管場所の確保が必要となります。



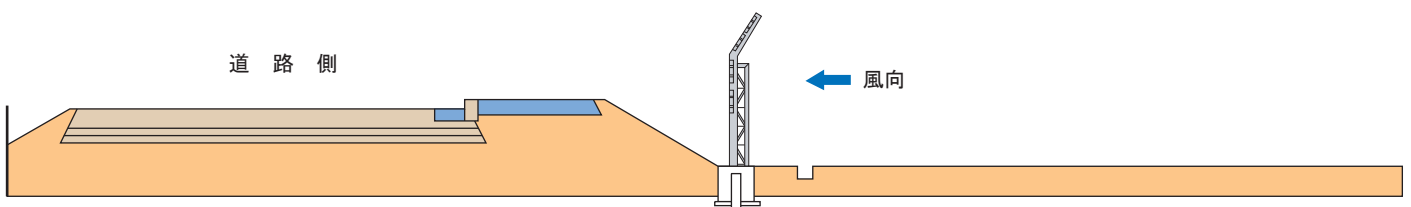
2. 吹払式防雪柵

空隙のない防雪板を風上側に傾斜して取り付け、広く下部をあけます。こうして下部間隙を通る風を強く絞ることで道路上の雪を吹き払い、吹き溜まりなどの発生を防止するのが吹払式防雪柵です。2車線であれば、風上側の雪堤の成長を抑えて路面上の雪を払うので、視程障害対策として効果があります。しかし、その吹き払い領域の長さは、柵高（通常3～4m）の1.5～2倍が限度で、また風向が変わると逆効果になることもあります。



3. 吹溜式防雪柵（吹止型）

下部間隙を無くし、防雪板の空隙率を10～40%に抑え、暴雪風を減速することにより柵前後に堆雪させ、道路上の吹き溜まりの発生を防止するのが吹溜式防雪柵（吹止式）です。空隙率を小さくすることにより、風下堆雪幅を柵高の2倍以下と短くすることができるので、道路と柵との間にあまり用地がない場合及び借地が困難な場所に適しています。





RIKEN

株式会社リけん

●本社 〒001-0924
札幌市北区新川4条13丁目7番26号
TEL:011-768-7247 FAX:011-768-7347

●東北営業所 〒981-3133
仙台市泉区泉中央3丁目10番3号(泉セントラル2F)
TEL:022-772-5456 FAX:022-772-5727

●石狩工場 〒061-3244
石狩市新港南1丁目28-69
TEL:0133-60-2531
日本水道協会検査工場 登録番号 第A-3号

設計・製作 株式会社リけん

代理店